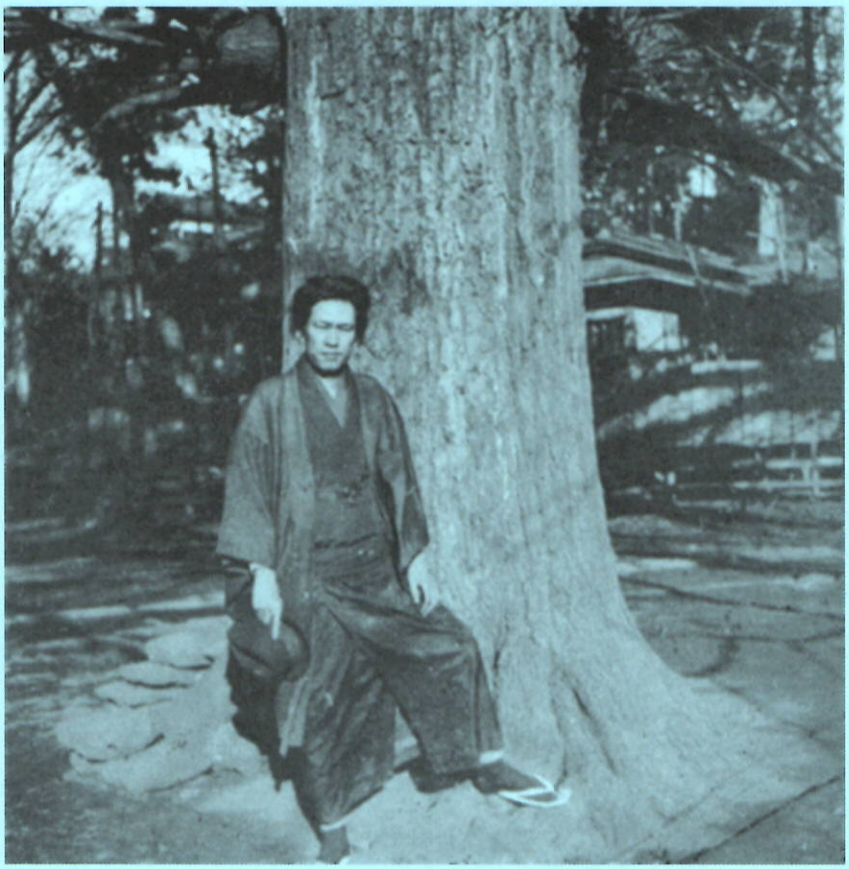
「文化ではぐくむ令和のこころ」

第 22 回　大分県民芸術文化祭参加行事

第22回　横光利一俳句大会

～入賞作品集～



発表：令和２年１０月３１日（土）

宇佐市民図書館ホームページ

http://usa-public-library.jp/

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

ごあいさつ

横光利一の生誕１００年を記念してスタートした「横光利一俳句大会」は今回で22回目を迎えております。今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、開催自体が危ぶまれておりましたが、作品募集と入賞作の選考までは実施可能と判断し、秋の表彰式実現を願って作品募集に踏み切りましたところ、第16回大会の平成26年に野中亮介先生に選考をお願いして以降、最多数のご応募をいただきありがとうございます。

応募総数は７７３０句で、一般の部が２２４０句、中学生以下の部が５４９０句でした。

応募人数は２５８２人で、一般応募が５４７人、中学生以下が２０３５人でした。

団体応募は県内外の小・中・高等学校を中心に、45校から６１８４句に及ぶ作品をいただきました。

感染防止のための休業と夏休みの短縮といった異例の学校活動のさなかにもかかわらず、応募学校数、投句数ともに大幅に増加いたしましたことは大きな喜びであり、取り組んでくださる児童・生徒のみなさんや、指導してくださる先生方のご協力に心より感謝申し上げます。

入賞句の選考につきましては、今年も、写真家の浅井愼平先生と俳人の野中亮介先生にお願いをいたしました。両先生をはじめ、みなさまがたにおかれましては、今後とも本大会へのご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

表彰式が実現に至らなかったことは誠に残念ですが、入賞作品の発表と特選句の選評は図書館ホームページ上で行っております。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

終わりに、みなさまのご多幸と新型コロナウイルスの一日も早い収束を祈念いたしまして、あいさつといたします。

令和２年10月31日

宇佐市長　是永修治

第２２回「横光利一俳句大会」表彰式は令和２年１０月３１日（土）に宇佐市民図書館・視聴覚ホールで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、やむを得ず中止することになりました。

諸事情お汲み取りのうえ、ご理解くださいますよう、お願いいたします。

■選者■

浅井慎平氏　昭和 12 年、愛知県生まれ。写真家・俳人。句集に『二十世紀最終汽笛』、『冬の阿修羅』などがある。平成 27 年、西東三鬼賞（最優秀）受賞。

野中亮介氏　昭和 33 年、福岡県生まれ。俳人。俳人協会理事。俳誌『花鶏』（あとり）主宰。著書に句集『風の木』、鑑賞読本『俳句こころ遊び』などがある。

横　光　利　一　*Riichi Yokomitsu*　（1898～1947）

宇佐出身の父・横光梅次郎と伊賀（現・三重県伊賀市）出身の母・こぎくとのあいだに、父の仕事先であった福島県で生まれた（利一の本籍は生涯宇佐にあった）。

菊池寛に認められ、川端康成を紹介されて親友となる。新感覚派文学のリーダーとして、昭和初期からめざましい活躍をし、昭和十年代には「文学の神様」と称された。

代表作に「日輪」、「上海」、「機械」などがある。また、半生をかけて書き続けた未完の大作「旅愁」の後半に主人公が故郷の九州を訪ねる場面があり、そこには宇佐の自然や人々との触れ合いが描かれている。

友人・知人に俳人が多く、自らも熱心に句作をし、小説の中にも盛り込んだ。また、句会「十日会」を主宰し、俳人の水原秋桜子や石田波郷らが参加したほか、門人の石塚友二や清水基吉は、小説家のかたわら俳人としても活躍した。

１９９８年に生誕百年を迎え、伊賀市（三重）、世田谷区（東京）、宇佐市、鶴岡市（山形）など、全国のゆかりの地であいついで記念事業が行われ、以来、各地の交流が続けられている。「横光利一俳句大会」も、宇佐市の生誕百年記念事業の一環として始められ、現在に至っている。生誕１２０年目にあたった昨年の表彰式は、「国民文化祭おおいた2018」の分野別事業として、規模を拡大して実施した。

第二十二回　横光利一俳句大会　入賞作品

【一般の部・特選】　九句

横光利一俳句賞	地下鉄の窓の漆黒原爆忌	金澤諒和	大分市
大分県知事賞	サングラスはづし酒宴の主賓席	藤井彰二	福山市
宇佐市長賞	炎天の影つれ歩く草田男忌	岸原邦代	岡垣町（福岡）
宇佐市議会議長賞	ずいき炊く母の厨は薄暗く	石井明美	津久見市
宇佐市教育長賞	そぞろ寒電気は笑うように点く	芝野麦茶	蕨市
大分県北部振興局長賞	百号の画布に色置く今朝の秋	井上寿子	直方市
豊の国宇佐市塾賞	芋の葉の大きな村に住みなせり	齊藤いさを	大津市
浅井慎平選者賞	曼珠沙華遺影より母うつくしき	睦ほたるこ	大分市
野中亮介選者賞	青簾アイロン台の薄き焦げ	米満幹音	鹿屋市

【中学生以下の部・特選】　九句

大分県知事賞	うめの色ほしてもっとあかくなれ	東　珀花（ひがし はな）	佐田小五年（宇佐市）
宇佐市長賞	小説のページを静かにめくる秋	神田　杏（あん）	上野ヶ丘中三年（大分市）
宇佐市議会議長賞	次の日は木と石だけの雪だるま	矢野寧々果（ねねか）	明治小六年（大分市）
宇佐市教育長賞	蝉が泣く後ろから僕が忍びよる	恒住修斗（つねずみしゅうと）	西部中一年（宇佐市）
大分県北部振興局長賞	めをあけたプールのそこはひろかった	森本和夢（ゆめ）	駅館小一年（宇佐市）
宇佐市民図書館協議会長賞	ソーダ水机の上の水たまり	上平眞之介（かみひら）	安岐中三年（国東市）
豊の国宇佐市塾賞	夏の水キラキラ光る夜の星	小松　夢	八幡小三年（宇佐市）
浅井慎平選者賞	つかもうと入道雲に手をのばす	髙持さくら	駅館小六年（宇佐市）
野中亮介選者賞	夏の日にじいちゃんが吹くハーモニカ	青松潤斗（まさと）	竹田南部中三年（竹田市）

【一般の部・秀作】四十四句

点眼や八月の街真白なる　上尾ヤス子　大分市

風呂吹の夕餉流星群を待つ　石崎允子　前橋市

晩学の本積みたして新茶汲む　岩崎要子　岡垣町（福岡）

帰省子の最中つぶれしまま供へ　岩波千代美　大分市

盆僧の来たりて一陣風が吹く　上嶋智岳　姫路市

鬼灯の鳴るたび戦後遠くなり　植田桂子　高松市

枝豆を貰うて父の膝の上　岡　汀子　三木町（香川）

ゆるやかに水脈たをやかに秋涼し　押谷　隆　別府市

整然と並ぶ黒靴初盆会　小野道子　由布市

美しく子鹿は跳ねて山に入る　柏木洋子　名張市

青麦や母の小声の子守唄　金井幸江　前橋市

稲香る大字小字の無くなりて　黒田健一　久御山町（京都）

ギター背に少女夕焼の乗車券　小坂優美子　射水市

過去帳の墨の薄れや半夏生　後藤美子　臼杵市

鬼の子の寝袋ゆらす風の唄　佐藤佳津　津久見市

つばくらめ体育館下に母を待つ　佐藤史織　大分市（高三）

日の盛千人針に手の痺れ　佐藤澄世　菊陽町（熊本）

火蛾寄りて父の鼾員の湯治宿　佐藤奈都子　高松市

少年のポッケで割れる桜貝　白井百合子　阿南市

一枚の父の賞状敗戦忌　高野ちか子　大分市

泣く子供抱いて見上げる鯉のぼり　高橋美実　大分市（高二）

駅弁の高く積まれて終戦日　竹浪誠也　鶴田町（青森）

恋もなく惜別もなく蠅叩く　塚越郁夫　太田市

秋の蝶十石舟の舳に艫に　辻　和弘　京都市

夏衣繕ふ母の力布　利國春美　高松市

鈴虫や推敲の夜の更けてゆく　中山恵美子　上毛町（福岡）

鶏卵に一滴の血秋暑し　野上　卓　世田谷区

ショパン弾く色なき風の通る部屋　ハワード素子　アメリカ

浄土へと花一列やからす瓜　樋口ひろみ　小郡市

子の釣果海へ返して休暇果つ　平田はつみ　杵築市

つれづれを秋の金魚と分ち合ひ　深沢暁子　横浜市

居すわれる煩悩ありて残暑かな　藤井隼子　大分市

切り株に爪痕のある晩夏かな　藤井万里　川崎市

踏ん切りをつけて榾火を猛らする　藤﨑由希子　宗像市

素通りのやつぱりできぬ鬼やんま　渕野陽鳥　大分市

今一度確かめに来る黒揚羽　豊東美智子　大分市

玄関をにぎやかにするつばめの子　村井奈那　中津市（高一）

野球部のバリカン唸る雨水かな　村上ヤチ代　八王子市

戯れと本気のすきま秋蛍　安田寛子　直方市

青饅や暮れて高まる堰の音　山本美弥子　上毛町（福岡）

しわ一つない制服と春の風　山本莉子　中津市（高一）

校庭の錆びし雲梯秋暑し　吉村良男　行橋市

秋の蝉客の去ぬれば声もなし　吉本栄子　津久見市

紅萩をこぼし下るや滝の道　渡邉英子　小金井市

【中学生以下の部（小学生以下）・秀作】二十一句

夏畑色とりどりのたから箱　阿部百花（もか）　豊川小四年

きずつけたつみなき人を原爆は　綾部　諒　明治小五年（大分市）

ぬけがらはセミの努力の結晶だ　井上桔平　院内中部小六年

物かげにかくれてあそぶ子ねこたち　岩田陽菜（ひな）　津房小五年

朝早く探してまわるカブトムシ　江藤愛梨　八幡小四年

こいのぼりゆたかな朝をおよいでる　岡村幸起（こうき）　豊川小五年

この夏は水着じゃなくてマスクあと　小幡真央　柳ヶ浦小五年

なごし祭おはやしの音きれいだな　片岡聡吏（さとり）　和間小四年

夕やけが海をおよいで消えてった　佐藤　心　明治小六年（大分市）

くさのなかバッタもおうちにかえってく　佐藤つかさ　長洲小二年

あさがおの家族がみんな大笑い　嶋田愛海（まなみ）　別府大学附属明星小五年

日焼けあと遊んだ時間思い出す　杣田健翔（けんと）　別府大学附属明星小六年

暑い中がんばる父のすがた見た　都留康平　宇佐小六年

授業中まどから入る夏の風　長岡歩波（はなみ）　明治小六年（大分市）

かたつむりおおきいほうがおにいちゃん　野尻羽琉（はる）　谷幼稚園年長（由布市）

シャワーあびきらきら光る夏の風　羽田野雄大（ゆうと）　明治小六年（大分市）

はなびみてかやくのにおいけむたいな　本田敦希（あつき）　和間小四年

夢えがく流星群の満ちる空　薬師寺咲彩（さあや）　明治小五年（大分市）

たけのこが空に向かってのびていく　矢野愛奈　別府大学附属明星小六年

小学校最後の夏がコロナかよ　山　宏輔（こうすけ）　佐伯小六年（佐伯市）

猛暑日に映画に行けば竜の声　山澤祐我（ゆうが）　田尻小六年（大分市）

【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十五句

夕涼み祖父の笑顔とすいか割り　阿部咲空　駅川中一年

麦わらの帽子の君に風なびく　安部連央　西部中二年

霧がまく自分が進む道しるべ　伊藤颯輝　長洲中二年

ゆかた着た君に焦がれる僕のかげ　梅本奏良　西部中二年

金魚ばちゆれる水面に入道雲　榎園恋華　駅川中一年

真夜中の鐘に誘われ初詣　久保田優也　安岐中三年（国東市）

浴衣着て出かける夜は大人顔　久米真優　駅川中二年

夕焼けや僕を見送りまた明日　梢　玲菜　長洲中一年

比べよう線香花火誰がかつ　後藤永美　西部中二年

雨雲やきらめく薔薇知らぬゆえ　佐藤　凛　北部中三年

友達と汗もかけない夏休み　通正純之介　宇佐中一年

風鈴の音で感じる我故郷　中山昇吾　安岐中三年（国東市）

バドミントンじゃまをしてくるとんぼたち　野尻祐衣　院内中三年

ぎこちない恋のはじまり冷奴　袴田涼介　上野ヶ丘中三年（大分市）

西瓜割り地面をたたき手がいたい　東　武伸　長洲中一年

ホームラン夏の暑さをかっとばせ　久下託史　上野ヶ丘中三年（大分市）

炎天下コロナ打ち勝つ球児達　古川咲綾　大分大部附属中二年（大分市）

暗い空どんどんつもる白い雪　本田瑠唯　長洲中一年

一瞬で線香花火闇の中　正池眞彩　真玉中三年（豊後高田市）

初泳ぎおどる瞳に入道雲　松本愛依　豊平中三年（北広島市）

せみの声突然奪ったきのこ雲　光本恵龍　北部中三年

墓参り後ろに気配なにもない　宮木陽菜　西部中一年

夏の夜花火で距離をとりながら　森きらり　駅川中二年

オリオン座綺麗に見える山の奥　安田朱沙　西部中二年

手のひらに落ちる雪を握りしむ　若狭由奈　北部中三年

【一般の部・佳作】百五十句

十六夜やテセウスの船難破して　安藝達也　鳴門市
金魚売り地声の通る血筋なり　秋本　哲　松山市
みな同じ向きのアンテナ開戦日　秋吉美津恵　上毛町
あのこづち添ひ寄るものは皆仲間　浅野　都　川口市
夕暮れのいつもの小径姫女苑　阿部奈保子　由布市
白靴や結婚すると徐に　荒井浩子　知立市
たこ焼きの匂ひよ天満祭の灯　池田紫艶　小布施町
初蝶や子のバイエルの聞こえくる　池田すみ子　福岡市
白鳥の脚の忙しき離水かな　石川　昇　世田谷区
夏近し心機一転前を向く　石川正尚　江戸川区
ひまわりと並べば僕は未完成　石田泰生　狭山市
川下に原爆ドーム螢飛ぶ　石橋康徳　府中町
夏雲にはやる思いで自転車こぐ　一木咲良　中津市（高三）
おはじきの色の弾けて立夏かな　伊藤幸子　京都市
木犀の移り香残る友来る　稲生英一　佐伯市
頬づえをとけば航跡風光る　井上やーくん　小田原市
円座にて生命線の話など　今宮嘉子　大分市
草刈りの音に始まる村の朝　今村七栄　宇佐市

男手と言はれ二つに大南瓜　芋岡勝一　臼杵市
比良八荒大風受けて艇日和　岩井浜千鳥　奈良市
雲の峰押さるる如き五十路かな　岩崎美紀　岡垣町
やはらかき妻の手首や蛍の夜　岩花太美　上毛町
また増えて目高の水槽理髪店　植木修子　大分市
春浅し迷ひし道を母に問ふ　上地ひとみ　松本市
桐一葉落つる間合の広き空　上原カツ江　前橋市
叱られて生家を出でし麦の秋　独活山強実　添田町
ままごとの家もゆうげか虫の声　うみせ秋子　静岡市
せせらぎの中や桜桃実の甘さ　浦田穂積　唐津市
裏庭に新顔の猫雨休み　衛藤芳子　大分市
ふるさとは海の匂ひや雲の峰　大石敏子　上毛町
珈琲をマウスに溢す夜業かな　大江深夜　練馬区
振るべしと書かれてをらず種袋　大賀康男　新居浜市
山の湯の葭簀ごしなる良夜かな　大木本法通　上毛町
離さるる仔を呼ぶ犬や秋の暮　太田省三　池田市
木漏れ日を土へ帰して桐の花　太田通子　太田市
梅雨明けに君より差し込む光かな　大堂元揮　大分市（高三）

金魚鉢にも一つの空がある　大野美波　入間市
問ひかけに応へなかりし竹婦人　大橋恒禮　京都市
物干し竿落とす音して春の昼　岡　志ほり　小浜市
祈る手の解けぬままや原爆忌　岡嶋　明　宇佐市
赤蜻蛉風一つづつ連れて来る　奥村真由美　鯖江市
八日目の蝉半身は風になる　小田祥子　大分市
お手をどうぞ敬老の日の杖がわり　織田好江　宇和島市
叱られても欠伸する犬夜長し　小野眞一　由布市
辻馬車の膨らむ幌や夏木立　小野澄子　上毛町
蝙蝠の全き月を横切れり　小野智輔　大分市
柏手に弾む胎動柿落葉　小野みふ　足立区
執着を手放す朝落花舞ふ　笠木範子　大分市
生真面目な大工の庭の桐の花　鹿沼　湖　鹿沼市
星ひとつ飛んでその後の行方かな　鹿目勘六　仙台市
桜鯛笑顔の絶えぬ夫婦船　川野和良　佐伯市
節くれし指は器用に栗を剥く　川野絹代　佐伯市
鎮魂の万のひまはり咲き揃ふ　河野洋子　中津市
黒白をつけし夜長をもて余す　神田昭次　大阪市
風見鶏流星群の風を読む　岸本つや子　京都市

曼珠沙華古書の発行年月日　岸本和穏　横浜市（高二）
コスモスや特攻隊を語る町　北村隆子　高松市
振り上ぐる鍬の軽さや遠郭公　木下テル子　上毛町
何処からかまた何所迄か秋深し　木村説子　国東市
宇佐平野眼科に匂い立つ青田　木村吾亦紅　国東市
蝶飛んで日差し明かるく回りだす　串田洋子　大阪市
鷹渡る岩壁ひそと観音堂　久保田　聡　川崎市
湯豆腐や山鳴り止みし湯治宿　熊谷文子　上毛町
階段をとんとんとんと生身魂　熊地タマミ　上毛町
散髪やドアを開ければ蝉の声　黒木成剛　龍ケ崎市
せせらぎの音に混じりて蛍とぶ　桑原虎大　中津市（高一）
魚屋の屋号の幟土用あい　香西富美子　高松市
音楽を奏でる如く障子貼る　小林寛久　桑名市
かきごほり崩壊したる祭の夜　古曳重美　北九州市
熱燗や耳に手をやる父恋し　小平展久　佐伯市
雲の峰目抜き通りに迫り来る　佐々木美知子　所沢市
花火師や魂共に打ち上げし　佐藤輝一　綾瀬市
掩体壕にのこる残骸虫のこゑ　鹿田欣子　福岡市
友達と会えない日々が続く夏　島村明日菜　大分市（高一）

墓洗ふ手は節くれて夕鳥　嶋　良二　日進市

のどけしや合図をすれば来る渡し　白木窓格子　岐阜市

かき氷口いっぱいの冷凍庫　末廣法音　中津市（高一）

絵に描いて行ったつもりの夏祭り　鈴武由唯　大分市（高一）

靴下のゴムの跡にも去年今年　須藤十南　池田町

着水に指まで開く川鵜かな　瀬戸　薫　松山市

捨て畑や命つなぎし蕷畑　髙田英子　日出町

花びらにしずくがおちる花時雨　高橋真美子　中津市（高三）

棟梁の耳に鉛筆秋うらら　武井日出子　松山市

愛猫が伸びてる姿暑さ知る　田添友美　中津市（高二）

潮の香の広き二階や鱧料理　田長丸桂子　中津市

石鹸の匂ひ鮮やか秋来る　田中龍太　佐々町

石仏の語るかと聞く若葉風　種田千代　横浜市

日向ぼこ焦げたにおいの猫を抱く　千島宏明　藤岡市

狸汁食うて膨れてきたる腹　塚本治彦　茅ヶ崎市

梟や点滴の児に読む絵本　筒井徳子　上毛町

月の夜ワンショルダーの演奏家　角森みゆき　安来市

かき氷一軒だけの夏祭り　角森玲子　安来市

筑波嶺の裾登りゆく稲穂風　手塚康雄　宇都宮市

身の丈に生きて八十路の花迎う　時枝和男　宇佐市

ストーブの赤く燃えゐて横光忌　富山　勉　東村山市

夕焼けてやがて古代となる大地　友成聖子　北九州市

水ヨーヨー透かす夜店の灯かな　中井呂孔　中津市（高三）

母と見し障子に映る吊るし柿　中川雄策　大磯町

調律師叩く鍵盤秋深し　中根みゆき　中津市

寝転んで父と眺めた流れ星　永松市夫　宇佐市

夕焼に子等のさよなら弾みけり　新名章廣　佐伯市

盆の月使い古せし免許入れ　二宮崇華　由布市

朝涼み星の真下で的を射る　野田さーちゃん　宇佐市

滔滔と筑紫次郎や青田風　野中安子　大分市

杖つきて踏み出す一歩涼新た　橋本真喜子　由布市

生身魂屋号で呼びぬ春炬燵　羽住玄冬　江戸川区

忘れたし忘れがたしと原爆忌　馬場美江　別府市

火の粉上ぐ風呂場の薪や枯木星　原井みえ子　糸島市

青田風青し山々尚青し　樋田征子　宇佐市

特攻の慰霊の道や稲の花　平村久恵　北九州市

木下闇抜けて神ある御許山　深草秀昭　大分市

前世にて討たれし場所や草の花　福井水龍子　坂井市

いわし雲ぶくぶく揺れる鍋の蓋　福島洋子　中津市
主留守の三面鏡や花木槿　藤目ひとみ　高松市
青竹を大蛇の如く竹伐会　藤原敏克　京都市
頂のひしめく小屋の星月夜　藤原雅裕　相生市
縄文の裔の集ひて大焚火　古川和子　鈴鹿市
分校に足踏みオルガン卒業す　古川みつよ　津久見市
晩刻の侘しさ思ふ金魚売り　發田響一朗　大分市（高二）
ファラオより遣はれしとや紅の花　堀ノ内和夫　奈良市
イースター島をゆくごと蟇　松下弘美　東松山市
帰省する笑顔を奪ふ時の疫　松原　啓　由布市
一本に地球の重さ胡瓜捥ぐ　松原幹夫　由布市
ねんごろに謝りつつも蝮打つ　松本公節　宇佐市
洋館は黒揚羽蝶そぐうらし　水越晴子　川越町
大銀河命の果のゆきどころ　御手洗豊海　佐伯市
翡翠が消えて代わりにある飛沫　三船　杏　練馬区
苧殻火や風に裏木戸鳴りにけり　宮井　寛　名古屋市
新涼や敗者たたうる応援歌　宮野和子　上毛町
かき氷食べて喧嘩の熱も冷め　武藤山査子　調布市
代数と幾何学終へてプール行く　村山芳行　新潟市

小事件起きたる部屋の金魚鉢　森田欣也　松山市
桑の実の黒く潰れし拝み石　森野珀葉　府中市
由布岳を映す水辺の夏蔚　矢川美枝子　大分市
サイドミラーに張り付き遠出の雨蛙　八木玲子　西条市
黒南風に油膜たゆとう船溜まり　薬師寺武信　津久見市
仔猫らは生き抜いており蝉しぐれ　山口洋子　前橋市
青岬天主堂射る波光かな　山島美紀　伊賀市
せみのこえ大合唱で夏始動　山田ちづる　大分市（高一）
夏の蝶ただ一面の光より　山月　恍　板橋区
人柱立てし石橋夏水仙　油布　晃　竹田市
自粛して山椒魚に似るくらし　横山八千代　大分市
爽やかに水車は語りかけてくる　吉武千束　中津市
駄菓子屋の引戸がらがら寒茜　吉田淑子　神戸市
老松や堀に揺らぎしおぼろ月　吉原白天　豊後高田市
寺山の冬日を受けし大師像　米田　学　松山市
城址への瀬音すがしき濃紫陽花　鷲津誠次　可児市
あたり前になってはならぬこの暑さ　渡邊涼子　大分市（高一）
滴りをしばらく眺め師を偲ぶ　渡辺セイ子　大分市
盆踊り親父十八番の河内節　渡辺勇三　宇陀市

【中学生以下の部・佳作】五十句

かがぶんぶんわたしのまわりをぶんぶん　井本実歩　宇佐小一年
もう朝だはやく起きろとせみの声　江藤巧真　八幡小三年
夏祭り家族と親友あの人も　小野涼夏　駅館小六年
帰省するやっぱりじもとは安心だ　椛田瀬乃　北馬城小五年
かたつむりいつになったらかえりつく　久保春翔　長峰小五年
ふり向いてひやひやするよきもだめし　小柳理紗　柳ヶ浦小四年
水の中泳ぐ鮭たちくまが来る　近藤翔太　北馬城小五年
夏の夜広い空あっ流れ星　佐藤蒼空　糸口小五年
オリオン座今日もさそりと鬼ごっこ　須賀心路　明治小五年（大分市）
かき氷にじのようなカラフルソース　須子知美　四日市北小五年
夏なのにマスクをつけてお買い物　簾　夏帆　四日市南小四年
たんざくに書いたねがいはかなうかな　時枝実咲　糸口小四年
目の前に広がるホタル果てしなく　日髙佐和子　院内中部小六年
たのしいないえのプールをひとりじめ　深蔵　輝　駅館小一年
秋風が涙と共に去っていく　藤本真由　豊川小六年
ひな人形のわらうおもかげ胸いっぱい　松木愛莉　北馬城小五年
冬みんをした動物が起きていく　松本菜緒　長洲小四年
スイカ食べ夜空見上げて種とばす　三澤愛実　深見小五年
ひまわりがフラフラゆれるダンスする　安見寧音　明治小六年（大分市）
白Tシャツスイカ食べるとアクセント　矢野千怜　駅館小六年
朝はやくたいそうしますひまわりと　山香美月　宇佐小四年
みつけたよセミのぬけがら木の下で　山野琳央　豊川小二年
井戸水のにわのプールではしゃぐ父　渡辺綾音　駅館小二年
暑き日に進まぬ宿題止まるペン　安倍尚美　大分大附属中二年
猛暑日も汗にまみれてストローク　荒巻優達　大神中三年（日出町）
ただいまと玄関開けると秋刀魚の香　伊藤菜子　上野ヶ丘中三年（大分市）
炎天も乗り越えられる球児へと　大園淳心　宇佐中一年
帰り道風が遠くの稲ゆらす　岡部紗和　宇佐中三年
待ちどおし巣から親呼ぶつばめの子　小野倭瑳　宇目緑豊中三年（佐伯市）
左に本右手ですくうコーヒーゼリー　小野晴人　東中津中三年（中津市）
夏空に吸い込まれるな僕の声　甲斐心寧　大分中三年（大分市）
絶え間なくコロナの夏も蝉時雨　辛島果歩　駅川中二年
受かりたい大きく鳴らす初詣　川口和晃　今津中三年（中津市）
オリオン座空に輝やく勇者かな　久我勇人　大分中三年（大分市）
涼風とともに流るる人の思い　近藤麻由　宇佐中二年
君の声シャボン玉のよに消えてゆく　坂本憂海　長洲中一年
初夢はいい夢だった忘れたが　里見優来　院内中三年
母が呼び二人でながめる月あかり　重光結月　上野ヶ丘中三年（大分市）
汗ぬぐうみあげる空と草むしり　首藤麻緒　宇目緑豊中三年（佐伯市）
夏の汗努力の結果ついてくる　武田　凌　駅川中二年
ヘルメット取りしときに汗の雨　田仲めい　大分大附属中二年（大分市）
シャボン玉風になびいてダンスする　鶴田佳莉那　長洲中一年
夏畑大きさ競う野菜たち　友松奈々夏　東中津中三年（中津市）
ペダルこぎ抗い逆らう夏の風　西馬蔵人　大分大附属中二年（大分市）
夏休み忘れてしまう自分の席　二宮誉彰　真玉中二年（豊後高田市）
夏期講座指先じんと受験生　原　千夏　東中津中三年（中津市）
きりぎりす大いに騒ぎ夜過ごす　羽良勇耶　院内中二年
鰤大根熱いうちにはよおたべ　久本智也　院内中三年
ごめんねと君の背中にシャボン玉　平野エミリ　津江中三年（日田市）
虹を見て今日も一日頑張ろう　廣尾美和　長洲中三年
宿題中祖母の差し入れ夏蜜柑　松木結愛　宇佐中二年
母の日に照れて言えないありがとう　都　皓凱　長洲中三年
君と見た夏空が好き会いたいよ　矢羽田まりあ　東中津中三年（中津市）

第21回「横光利一俳句大会」表彰式当日句入選作品（令和元年11月2日）

野中亮介・選

【秀作】五句

吊り革に人のぬくもり秋の雲　渕野陽鳥（大分市）
カフェラテの小犬くづれし初時雨　藤目ひとみ（高松市）
甕棺の粗き縄目や文化の日　小野澄子（福岡市）
板書きのローカル駅名冬ぬくし　渡辺セイ子（大分市）
初紅葉見合ひの髪を結ひ上げて　天野眞由美（福岡市）

【佳作】五句

小春日やト音記号のほどけさう　松本みゆき（大分市）
突然の形見となりし花カンナ　花田睦生（北九州市）
新米炊く戦火知る身も知らぬ身も　佐藤澄世（熊本市）
胡桃割る話し相手のほしき夜　有宗眞弓（別府市）
鬼が築きし石段（せきだん）へ木の実降る　目原千鳥（大分市）

編集・発行　宇佐市民図書館　令和2（2020年）10月31日
〒879-0453　大分県宇佐市上田1017-1
TEL.0978-33-4600　FAX.0978-33-4679
URL.http://www.usa-public-library.jp/

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE